

第 69 回東日本整形災害外科学会  
ランチオンセミナー 8

# 骨粗鬆症患者の 脊椎インストゥルメンテーション手術の工夫

日時

2020 年

10 月 2 日 金 16:00 ~ 17:00

※ライブ配信のみとなります。

演者

井村 貴之 先生

北里大学医学部 整形外科 講師



抄録

## 骨粗鬆症患者の脊椎インストゥルメンテーション手術の工夫

超高齢化社会に伴い我々が治療対象とする脊椎疾患において骨粗鬆症の有病率は高くなっている。高齢者の活動性も高くなっており高い QOL・ADL を希望し脊椎疾患にたいして手術加療を希望する患者が増加している。とくにインストゥルメンテーションを用いた手術治療をする際に骨粗鬆症に考慮して手術を工夫する必要がある。また、高齢者に対する手術治療をする際は侵襲についても考慮する必要がある。脊椎インストゥルメンテーション手術の合併症として椎弓根スクリュー（PS）のゆるみ、偽関節、矯正損失、隣接骨折などがあげられこれらは骨粗鬆症を有すると増加すると考えられる。これらの合併症を回避するために様々な工夫がなされている。

インストゥルメンテーション機器の発展により PS の形状の進化、沈下のしにくいケージ、幅広いプレートをもつケージ、ナビゲーション、新たな骨移植材料などが使用できるようになっている。これらにより合併症を回避するために術者の選択肢は広がり最大限に利用するべきであると考え。我々は、術前のテリパラチド投与や椎弓下テープや Hook を用いた augmentation を行うことで術後の PS のゆるみや矯正損失を可能な限り予防するように工夫をしている。手術の目的に応じて可能な限り short fusion にすることも行っている。本講演では我々が経験した骨粗鬆症を有する脊椎手術における工夫や問題点を中心に紹介する。